

また一つ世界の意識の深層構造を明らかにする挿話：

CNN 警告

Greatchain

2019/09/23

前回の「CNN の警告：キリスト教徒は〈想念や祈り〉で人々の邪魔をするな」という奇妙なエピソードを、更に詳しく分析してみたい。まず CNN というメディアは、ある読者の方が指摘してくれた通り、犯罪的国家機関である CIA と密につながっており、CIA は「モッキングバード（まねしどり）作戦」というものによって、世界の主流メディアを支配していることを、抑えておく必要がある。

この CNN の警告は、キリスト教徒たちに向って、「お前たちの馬鹿げた祈りのようなものによって、まともな人々の精神を乱すようなことをやめよ」と言い、完全に宗教を敵視する極左の立場に立っている。要するに、祈りは呪いだという、転倒した立場である。今日のアメリカの民主党は、おおむねそういう立場をとって、宗教的なトランプ大統領を引き下ろそうとしている。

この「科学ナショナル・アカデミー」が行ったという聞き取り調査は、どういう意図をもつものかわからず、また、これだけでは説明不十分で曖昧だが、想像で補いながら考えてみたい。まず、こういうことが起こるのは、大きな自然災害または人災が起こり、おそらく大量の死者が出たあと、一応、状況が沈静したときのことらしい。キリスト教徒はおそらく集団で、成句による祈りや神への思いを、小声で、また心の中で言うだろう。これはわが国でも同じだが、わが国ではほとんどが「黙祷」で、黙祷に神は出てこないと思われる。

そこにはまた、「無神論者と不可知論者」たちが、おそらく少し離れて集まっている。彼らは同じ悲しい思いはしても、祈りや神への思いなどは、馬鹿々々しいと思っている。しかし、自分は無神論者だ、不可知論者だと自覚し、また公言している者は、(日本人の大半がそうであるような) 無自覚の無神論者ではない。彼らは神への、また宗教者への、敵対意識をもつ者たちである。だから、この研究論文の記者が、無神論者は神にも宗教にも無関心なのに、特にキリスト教徒からの祈りや想念を、敏感に感ずるのはなぜだろう、と言っているが、それは不思議なことではないだろう。彼らは「無関心」ではない。常に反対作

用をもつアンテナを、(自分の悪口を恐れる者のように)常に張っている。ただし、それは自分では意識していないかもしれず、また、知らぬ間にとりつかれた悪霊の作用かもしれない。

彼らがこれをキャッチすると、平静心を失い、かき乱され、ひどく不快感を覚えるのであろう。そして最初は単に迷惑であったものが、ついにキリスト教徒どもに対する敵愾心になるのであろう。あいつらは俺たちを苦しめる妖術使いだ、許せない！これが現在の2分した世界の、理不尽な怒りや苦しみの根源にあるだろう。インテリジェント・デザインに対する、理不尽な怒りはその典型である。学者だから論理や理屈が通ずると思うのは間違いで、それは、いわば無神論が、詰め腹を切らされることに対する恐怖である。彼らは、相手の祈りであるものを、自分たちへの呪いと受け取っている。

読者の中には、祈りも呪いも、現実の効果はないのではないか、という人があるかもしれない。そういう人は、前記事の「瞑想の効果」という引用を見ていただきたい。これは、7,000人の人が一堂に会して、一斉に、愛や平和の思いを込めて瞑想(祈りとは言っていない)をしたところ、世界中の戦争や暴力が、72パーセントも減少したという、厳密な科学的実証の話である。これは、デイヴィッド・ウィルコックの思想の、重要な柱の一つになっている。「愛や平和の思い」とは「神への思い」ということである。因みにこれは、いわゆる宗教でなくてもいいと私は思う。私にとって、この無限に燃える思いは——「美のイデア」である。それは想念によって、デンバー国際空港の「子供の死体のある風景」<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180330.pdf> や、ロンドン・オリン(パラリン)ピックの醜いお祭りを、吹き飛ばすものだと思っている。

もう一つ面白いのは、これら祈りを聞いて心身に不調を起こす無神論者たちが、彼らに祈りをやめさせるためには、〈カネを払ってもいい〉と言いだすことである。こんなことは普通、人がやることではない。隣の家ラジオがやかましいので、カネを払ってやめてもらうなどとなどということ、聞いたことがない。しかし、どうやら、これがパターン化しているようだ。しかも、その相手によって金額まで異なっているのは、もしかしたら数魔術だろうか？

それは彼らの大元にある、サタン教の掟のようなものかもしれない。彼らは我々を殺したり、強制したりすることはできない。しかしカネによって、我々を、彼らの陣営に取り込むことはでき、それが最も賢明である。CIAはモッキングバード作戦によって、世界の主流メディアを、思うように動かすことができる。しかしそれは、力による強制でなく、それなりの報酬を払って、連帯責任を持たせることによってである。この連帯的腐敗が、アメリカの政府を腐らせ、我々のメディアをも腐らせている。

—以上